



2019年8月28日【第1151回】



クラブ会長ターゲット  
「友情を育み、地域社会に貢献する」  
"Foster friendships,  
Contribute to the community."  
2019-2020年度  
東京臨海ロータリークラブ会長  
佐藤正樹

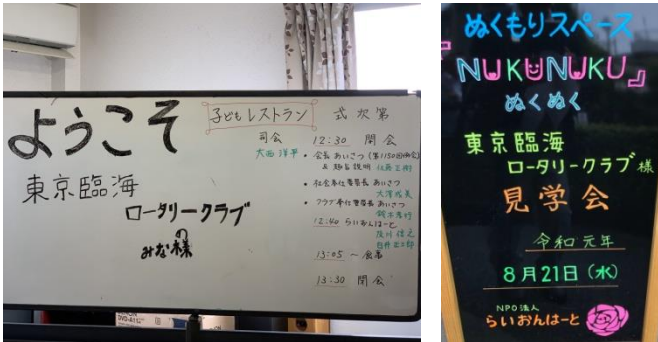


国際ロータリーテーマ  
「ロータリーは世界をつなぐ」  
"ROTARY CONNECTS  
THE WORLD"  
2019-2020年度  
国際ロータリー会長  
マーク・ダニエル・マローニー

創立：1994年8月8日  
会長：佐藤正樹  
副会長：高橋映治  
幹事：杉浦孝浩  
会報委員長：勝間田健一

8月28日の卓話	8月21日の出席率	9月4日の卓話
「イニシエーションスピーチ」 当クラブ会員 白井正三郎様	会員在籍者数 39名 会員出席者数 23名 会員欠席者数 16名 本日の出席率 62.16% 前々回訂正出席率 78.38%	「ご本人の経験からディズニーの経営とコンサルティングを通じた様々な企業の経営について」 経営コンサルタント 橋本ボブ宏昭様

《第1150回例会報告 2019年8月21日》  
会場：NPO法人「らいおんはーと」子供食堂  
ぬくもりスペース『NUKUNUKU』ぬくぬく



る地域のボランティアの皆様、平日のお忙しい中、このような素晴らしい席を開催していただきありがとうございます。今回の目的と致しましては、この場を通して活動内容を知っていただくことが一つ、そして、スタッフの皆様は手弁当でご協力されていますので、クラブとして寄付もしておりますが、各企業・個人でも寄付をしてこの素晴らしい活動にご参画いただけましたらと思っております。皆様、宜しくお願い致します。

- お客様・ビジター紹介：佐藤正樹会長  
らいおんはーと理事長 及川信之様  
らいおんはーと相談役 白井正三郎様(当クラブ会員)  
ガバナー補佐 嶋村文男様  
東京臨海西 RC 島崎久志様

司会：大西洋平会員（らいおんはーと担当）



- 開会
- 会長挨拶&趣旨説明：佐藤正樹会長  
夏休みに合わせて今回は開催致しました。臨海RCとしては前年度に続き2度目となります。次は春休みに合わせての開催を予定しており、この活動を知るといことをさせていただきたいと思っております。この会を開催するにあたり、ご尽力いただきました、大西会員、鈴木会員、白井会員、本当にありがとうございます。また、及川理事長を始めとす



- 社会奉仕委員長挨拶：大澤成美委員長  
今日はこの移動例会の場所をご提供いただきまして、及川理事長ありがとうございます。当クラブで



は鈴木さんが当初からサポートしていただいていますし、白井さんがこちらの相談役ということで、おそらく区内のRCの中で一番ご縁が深いということになるかと思います。今、少子高齢化という中で、このような次代を担うお子さんたちを育むということは非常に重要な社会的要請だと思います。そのために貢献されている及川理事長始めとする役員、職員、地域のボランティアの方々に敬意を表したいと思っております。我々社会奉仕委員会と致しましても今年度改めて貴法人に対してどのような貢献ができるのかを検討して参りたいと存じます。とにかく、この重要な要請に応えるべく、クラブとしても頑張っていかななくてはならないし、私もささやかながら協力させて頂きたいと思っております。

宜しくお願い致します。



■クラブ奉仕委員長挨拶：鈴木孝行委員長  
(サポートに至った経緯&想いなど)

ここに至った経緯をお話させていただきます。私と大西会員は明治大学院に通っておりました。そこに元東京都副知事の青山先生という教授がいらっしゃいました。その時の授業の中で子供の貧困という授業がありまして、こういうものに対してお金を使わないでどうするのだという話があったのがきっかけでした。その後、江戸川区議である大西会員に江戸川区はどうなっているのかということ調べていただくと、小学校が約70校児童数約35,000人、中学校が30校約15,000人の生徒、江戸川区には50,000人いる中で、3,000人が朝食を食べていないということがわかりました。そのうち1,000人が食べたくないから、1,000人が朝起きれないから、そして1,000人が食べさせてもらえないからという内容でした。それを聞いたときに、何かしらの事業をする中で、自分の事だけしていればいいということではないことに気づきました。そこで、大西会員より、子供食堂という活動があることを聞き、しかし資金不足等からなかなかうまくいかないという実態があるとのことでした。という中で、NPO法人らいおんは一とさんを大西会員より紹介いただきました。江戸川区の小中学校PTA会長さん達が中心となっている法人さんで、

高校進学フェア等を開催している中、子供食堂をやりたいので、ご協力いただける方がいないかということになり、大西会員と及川さん、白井会員とお話しすることになったのです。佐藤大輔会員や村社会員を始めPTAに携わっている方が大勢いることも知りました。この活動は行政が関与することはできないことも調べがつかしましたので、半年から1年位揉んだのですが、年間7,000万円くらいの費用がかかるということもあり、なかなか実行には至りませんでした。そこでぜひとも何か協力させていただきたいということになりました。朝食を食べる食べないはそんなの親の責任だという意見もございしますが、責任を問うてもその責任に応じなければ子供は生きていけないということで、私たち事業家の端くれたる者たちが何かしらやらせてもらえたらと、強いて言うのであれば、この江戸川区にあるRCの方々がそういうところに目を向けていただければ地域のすばらしい大きなコミュニティになると思ひ、臨海RCにご紹介したというのが流れでございます。当社も毎月寄付活動を一年以上協力しております。是非とも会社ぐるみで考えて頂き、従業員の皆様にも社会貢献の機会を得られるという事にもなりますので、今後とも、ひとつ宜しくお願い申し上げます。



■支援金贈呈：佐藤(正)会長⇒及川理事長



■激励品贈呈：大西会員⇒子供たちにお菓子を配布



■卓話

「らいおんは一と概要説明・近況報告・ビデオ上映」

## ・らいおんは一と理事長 及川信之様

昨年8月にもお越しいただいて以来2度目のご訪問ということで、ありがとうございます。NPO法人らいおんは一とは昨年1月11日ですが、その前身からのここに至った経緯をお話させていただきます。私は、江戸川区の中学校で4年間PTA会長をしていました。その中で、不登校、いじめ、家庭環境問題等の相談をたくさん保護者の方々より戴いておりましたが、どうしてもPTAでは踏み込めないことがたくさんありましたので、PTA会長を下りまして、なんとかそういうところで関わっていけないかと思っていました。最初思ったのは、不登校の支援をしようということでした。江戸川区にはおよそ800人不登校の子がいる中、こちらにも7名の不登校の子がいますが、現在、4人の子が登校するようになりました。そういう活動をする中、当時江戸川教育長でいらっしゃいました白井相談役に相談したところ、子供食堂を勧めていただき、様々な子供の環境に対応したいということで始めまして、鈴木代表へ相談させていただきました。私以上に興味をもっていらっしゃり感銘を受けました。そこで朝ご飯を子供たちに食べさせてあげられないかということになりまして、皆様のご協力をいただきまして、スタートさせることができました。現在のかたちになる前の2年前にPTAの仲間と一緒に町内会館で子供食堂を始めました。一回目は焼肉にしたのですが、最初に焼肉にしてしまったので、2回目以降のメニューに困りました。あたたかい心と優しい心が響きあいそこから育まれる新しい心の根、穏やかな時に感じるぬくもりということでぬくもりこども食堂「ぬくぬく」と命名させていただきました。また、ぬくもりは白井相談役がされている学習支援塾「ぬくもり塾」からいただいております。そして、その1年後に鈴木代表よりこちらの場所を提供していただき、毎日活動することが出来るようになりました。それを機に仕事も辞め、この活動に専念することに致しました。その想いとしては、いつ子供がきても対応できるようにしたい、朝から晩までいて、毎日向き合って居ないと子供は心を開きませんので、家族みたいな付き合いをしなければならないので、ここは家なのだという感覚で過ごしていただいております。最初の子とはおおよそ半月間、私たち2人と3人で過ごしました。その間も、いろいろな告知をしたのですがなかなか集まってくれなかったのですが、夏休み勉強を教えますというPRをした途端に集まってくれました。これは、子供食堂というイメージが、親からすると貧困と結びついていたからストップをかけていたのが、勉強を教えてもらいに行かせるといえるようになったからでした。そこから今に至っているということです。その後右肩上がり子供の数が増え、まるで昭和の時代の大家族のような和気あいあいとした雰囲気、今ではごはんも一緒に

作っています。偏食の子も自分で作るとなると嫌いなものも食べてくれます。先日は関取に来ていただきちゃんこ鍋を食べたりもしましたし、こういったボランティア活動に協力したいという方々を多く巻き込んで活動を広げていきたいと思っております。また、朝ご飯をどうしても食べに来れない子供たちには無償でいただいているバナナを渡したりしております。そうすると、兄弟や親の分も持って帰ってもらったりしています。一方、実態として、子供食堂の数は増えているのですが、途中で辞めてしまうところが多いというのも事実です。子供食堂は一度始めたら、大人の都合で辞めるのは無くしてもらいたいと思います。子供たちには将来問題行動を起こすことなどない大人になってもらいたいのので、愛情を持って育てていきたいと思っております。皆様には本当にいつもご協力・ご支援をいただき、子供たちの笑顔があるのはそんな皆さんのお力あってこそなので、いつも感謝いたしております。今後とも、宜しくお願い致します。今日はありがとうございます。

## ・らいおんは一と相談役 白井正三郎様(当クラブ会員)

今の子供食堂の役割としては、4つございまして、1つは子供貧困対策、個食解決、教育支援の場、地域交流の場です。それぞれの施設が何に重点を置いているかで変わってきます。こちらは毎日開いているのですが、他にはございません。なぜ毎日できるのかというと、及川理事長が専従していただいていること、そして、支援を多くいただいているからです。ですので、こちらは中でも恵まれた子供食堂なのです。やはり子供食堂は毎日やっているのが理想なので、区の方にも要請していかねばなりません、専従者を増やすのも重要なのかと思います。理事長の負担も大きなものとなっております。まだまだ完成形ではございませんので、皆様ご理解をいただき引き続きのご支援をお願い致します。本日は、ほんとにありがとうございます。



■食事(子供たちの配膳にてカレーライスの昼食)



■閉会



## 令和元年度（第17回）青少年の翼事業 帰国報告会に参加して



- 参加者** 東京臨海 RC 会長 佐藤 正樹  
東京臨海西 RC 会長 栗山 義広
- 日時** 令和元年 8 月 17 日（土）
- 場所** 江戸川区総合文化センター
- 目的** 区内青少年（中学 2 年生から高校 3 年生）を海外に派遣（60 名/年）し、多くの出会いを通して、外国の文化や生活習慣、言語を学ぶ機会を提供することにより、国際人としての感覚を持った人材育成を行うこと。  
多くの青少年が、島国 日本から世界を知る重要な事業であり、現在まで総勢 1,275 名の学生が渡航している。  
70 万人都市である江戸川区の大きな継続事業となっている。
- 行先** オーストラリア（20 名） 12 日間  
ニュージーランド（20 名） 12 日間  
イギリス（20 名） 12 日間
- 財源** 全て寄付金 ※江戸川区行政の予算は使われていない
- 費用** 1 回開催あたり 2,000 万円以上
- 寄付金** 東京臨海ロータリークラブ  
（前年度のみ 20 万円寄付）  
東京臨海西ロータリークラブ  
（前年度のみ 20 万円寄付）  
鈴木孝行会員 毎年 2,000 万円寄付  
（寄付累計額 1 億 5,000 万円）

江戸川区 文化共育部の方々、鈴木会員からお声掛け頂き、私佐藤と栗山会長 2 名にて参加しました。  
齊藤区長をはじめとする皆様に温かく我々を迎えて頂きました。  
齊藤区長からの挨拶の折、会場に居られた多くの皆様に我々をご紹介頂き、厚い御礼を頂きました。

## 元青少年交換学生鈴木陽子さんからの来信

こんにちは。大変ご無沙汰しております。  
年々暑い夏が続いておりますが、お変わりなくお過ごしでしょうか。  
大変ご報告が遅くなりまして申し訳ございません。  
今年度 4 月より安田学園中学校高等学校に勤務し、現在教師をしております。  
大学卒業後は大学院に進学、そして現在に至ります。  
勉学・研究を優先し、皆様のお顔をなかなか拝見できなかったこと、大変申し訳ありません。また、手短かなご報告お許しください。  
本校では今年度 6 月にインターアクトクラブが新設されました。私はその顧問として携わっておりますが、6 月に本校で行われた発足式には臨海 RC の齊藤実さま、入澤さま、高橋さまにご足労いただきまして大変嬉しく、感謝の意でいっぱいです。その節はありがとうございました。また、7 月の年次大会では橋本さまにもお会いすることができました。  
着任しまだ間もないですが、元ロータリー生としてまたこのように国際ロータリー、インターアクトクラブに関わることができ嬉しく思うと同時に、臨海の皆様に再会し、このようなご報告ができることで恩返しができればと思っております。  
また近い将来、皆様にお会いできることを心待ちにしております。

安田学園中学校高等学校  
鈴木 陽子